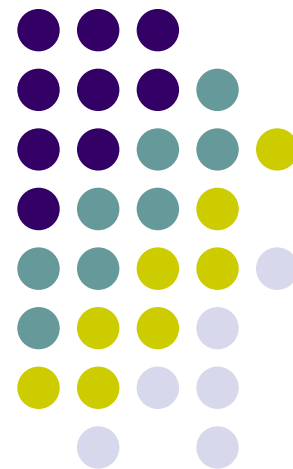


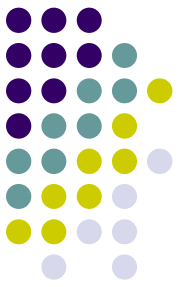
H.18年度 教育学部専門科目
臨床心理学(4)
(臨床精神医学)

教育臨床心理学ゼミ

教育学研究科付属子ども発達臨床研究センター

田中 康雄





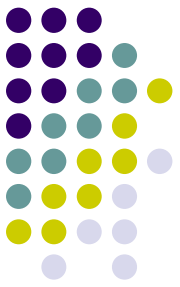
本日の流れ

- DVDを見ます(虐待について)
- 前回の意見への返答
- 親と赤ちゃん(2)
 - 虐待・ネグレクトについて



前回の意見への返答(1)

- タイムアウトについて
 - タイムアウトを繰り返すことで欲求不満にならないだろうか
 - 重要なことは、タイムインをどうやって表現するか
 - 年齢以上にタイムアウトをしない
 - 1歳 1分
 - 2歳 2分



前回の意見への返答(2)

- 面接場面に子どもが同席する事の是非
 - 同席の利点
 - 秘密, 深読みをしなくてすむ
 - 自分の課題が検討されているということを知る
 - 同席の欠点
 - 自分はやはり問題をもっているという自覚すること
 - 正しく思うように話ができない



前回の意見への返答(3)

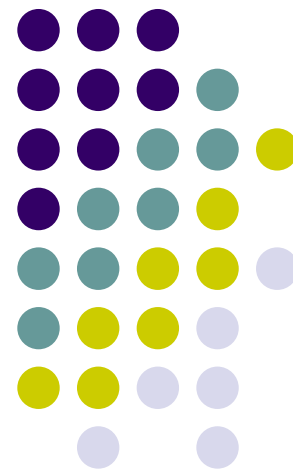
- 世代間伝達について
 - 過去に影響されずに新しく子どもに向き合うことは可能か？
 - 虐待の講義のなかでお話します
 - ふと、いやな場面が浮上して暴力に傾くことはないか？
 - 攻撃性について説明します

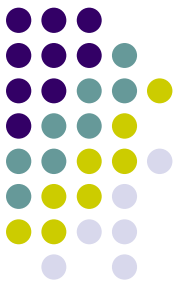
攻撃性に関わる神経回路: セロトニンニューロン



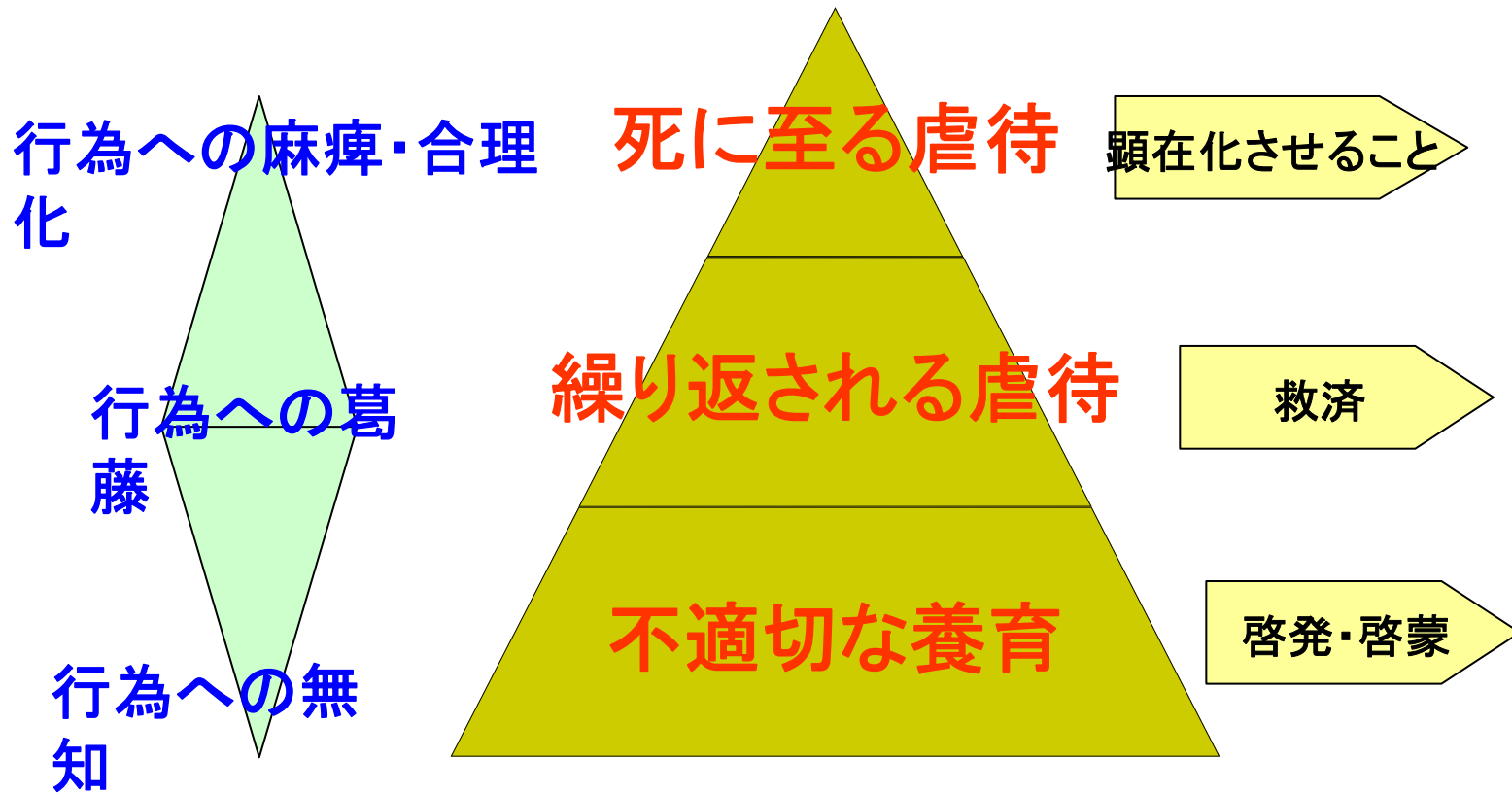
- セロトニンニューロンの役割
 - 大脳皮質にある攻撃抑制系の機能促進
 - 視床下部の攻撃動因系を抑制
- セロトニンニューロンに影響を及ぼす因子
 - 活性化させる因子
 - リズム性の運動
 - 日光浴(太陽の光)
 - 複雑意外性のある刺激
 - 弱体化させる因子
 - 単純な反復する刺激
 - ストレス
 - 昼夜逆転

虐待とネグレクト





虐待の階層モデル(仮)

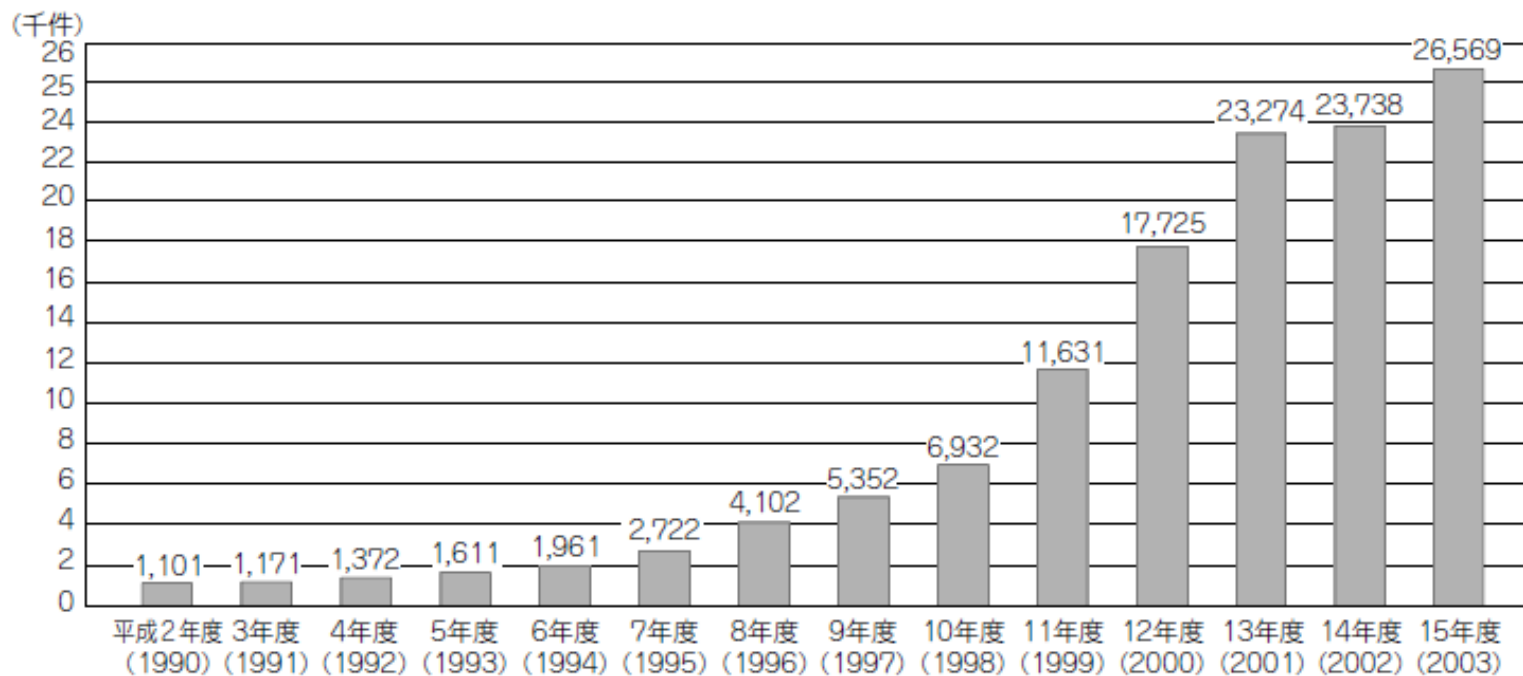


共通点は「孤立化」と限定された「自己責任」



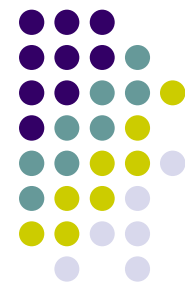
虐待の現状(1)

VI-8-1図 児童相談所における虐待相談処理件数の推移



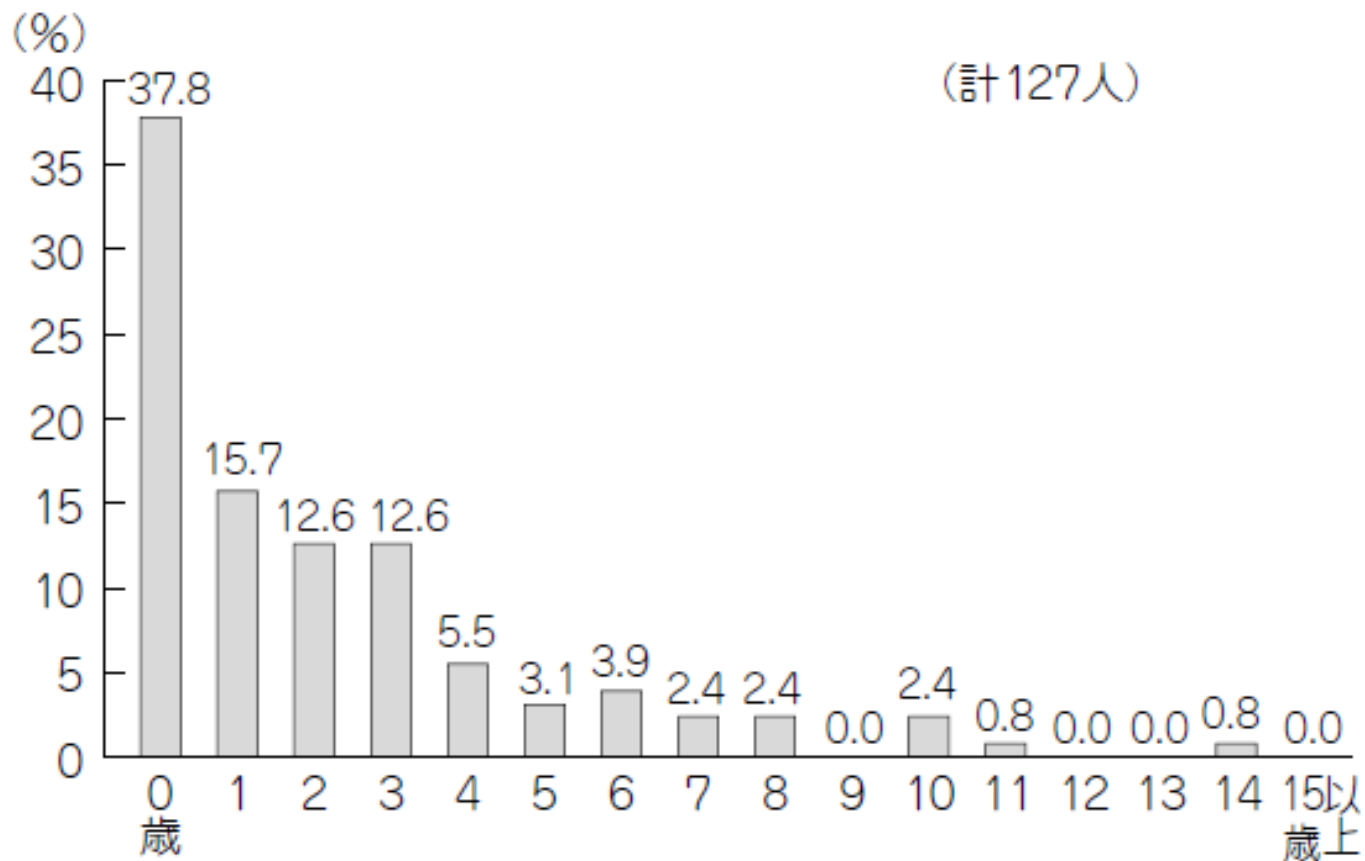
資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「社会福祉行政業務報告」

虐待の現状(2)



VI-8-3 図 児童虐待死亡事例の概要 (平成12年11月～15年6)

1. 被虐待児の年齢構成

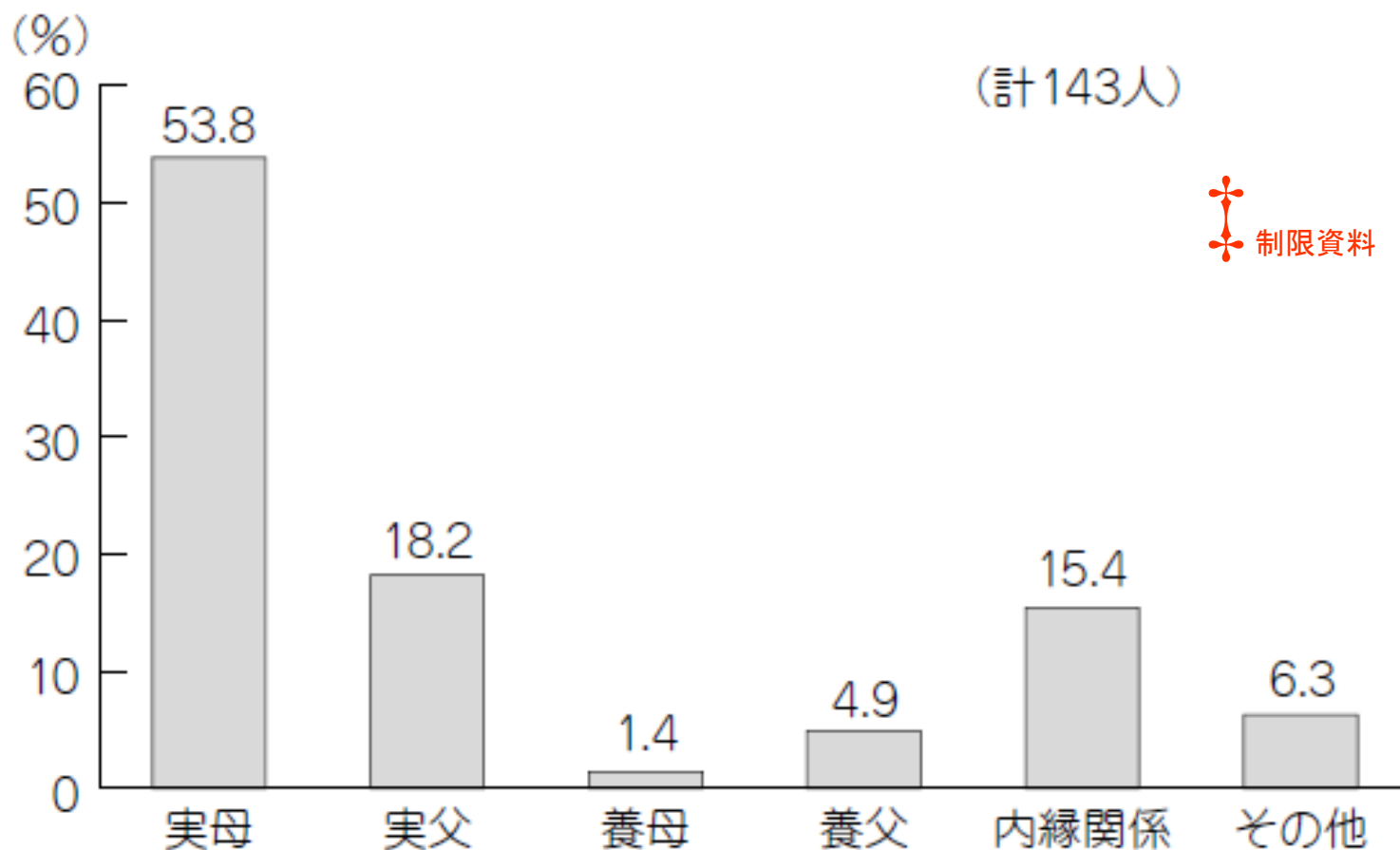


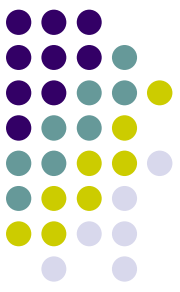
制限資料



虐待の現状(3)

2. 虐待者の続柄





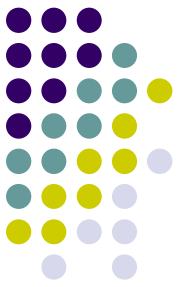
児童虐待とは

- 保護者（親権を行う者，未成年後見人その他の者で，児童を現に監護するものをいう）が，その監護する児童（18歳未満）について，暴力，わいせつ行為，発達を妨げる放置などの行為，暴言などの対応，同居する家庭における配偶者への暴力，その他児童に著しい心理的外傷を与える言動などを行うこと



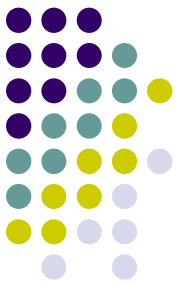
児童虐待の分類(2003年度)

- 1) 身体的虐待(12,022件, 45%)
 - 身体的暴行による虐待
- 2) 性的虐待(876件, 3%): 少なすぎる!
 - 性的暴行による虐待
- 3) ネグレクト(10,140件, 38%)
 - 養育・教育・医療からの放棄・拒否
- 4) 心理的虐待(3,531件, 13%)
 - 1)2)3)以外の行為による心理的外傷
- 5) DVの目撃: 改正後に追加された



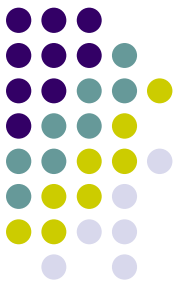
児童虐待の特殊な形態

- 1) Munchausen syndrome by proxy
 - 代理によるミュンヒハウゼン症候群
- 2) Shaken baby (infant) syndrome
 - 乳児揺さぶり症候群
- 3) ネグレクトによる成長障害
 - 愛情遮断性小人症
- 4) 親子心中 (母子心中が60%以上)
- 5) 棄児・置去児 (全国で年間250件)



虐待・ネグレクトの要因

- 唯一特定できる要因はない
- 好発年齢は乳幼児に集中
 - 3歳未満:20% 3歳から就学前:27%
- 4つの要因(複合的要因)
 - 子どもの特徴
 - 社会状況
 - 子育ての技能
 - 愛着の弱さ



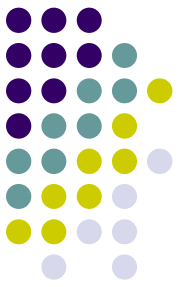
子どもの特徴

- 特別な対応を要する子ども
 - 早期の病気, 未熟児, 発達障害など
- 育てにくい子ども
 - 気むずかしい子ども, 癩の強い子, **Difficult Child**
- 頻繁な金切り声での号泣
 - イライラさせる子ども など



社会状況

- 社会的なサポート
 - 子育てに手一杯
 - 助けになるパートナーがいない
 - 友人が尋ねてくれない
- 物質的な状況
 - 貧しい住宅
 - 負債
 - 失業
 - 殺伐とした地域
- 価値観
 - 個人的価値観
 - 暴力の容認
 - 子どもよりも自分
(自分本位・自己中心性)
- 日常の状態
 - 疲労感と怒りっぽさ
 - 終わらない口論
 - アルコールあるいは薬物依存



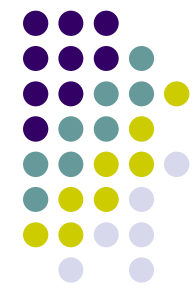
子育て力

- 子どもへの世話の特徴
 - 必要な認識の欠如
 - 厳しい処罰
 - 誉めることをしない
 - 指導力のなさ
- 精神病の問題
 - 抑うつ
 - 人格障害
 - 薬物・アルコール依存
- 知的に低い親
 - 様々なハンディキャップ(社会的不利)
- 自分の育った経験
 - 口汚いあるいは不注意に付けられた経験
 - 被虐待の既往(30%程度)
 - 埋め合わせの経験がない

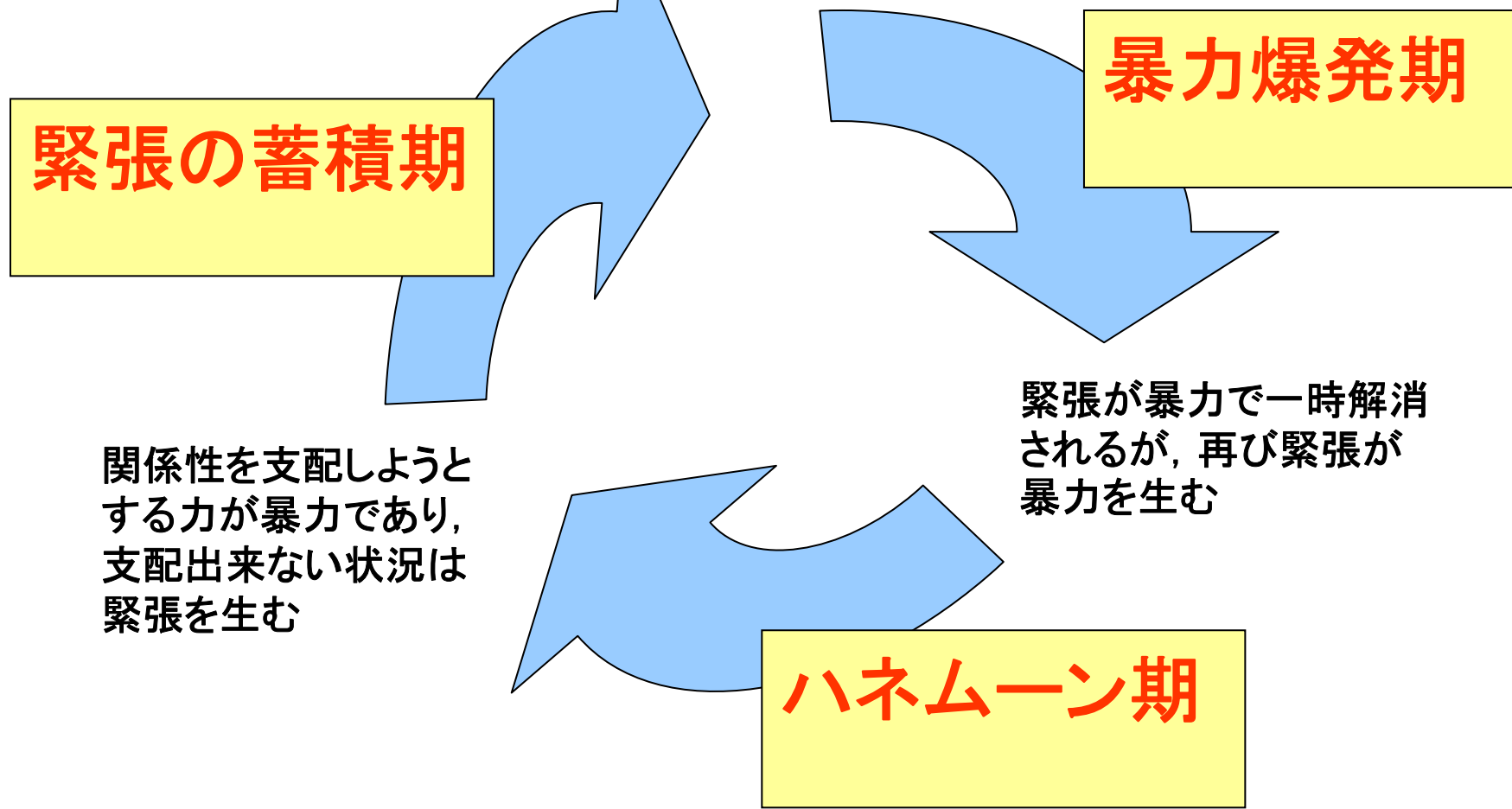


愛着の弱さ

- 望まれない妊娠
- 早産での出生
- 早い母子分離
- 継親



暴力の悪循環～支配・被支配のパワーゲーム～



虐待・ネグレクトを受けた子どもたち



● 身体面の特徴

- 低身長・低体重・成長障害
- 皮膚外傷
- 骨折・脱臼・骨端破壊
- 火傷
- 頭部外傷
- 内臓損傷
- 脊椎損傷・麻痺
- 網膜剥離などの眼症状
- 栄養障害・飢餓
- けいれん・てんかん
- 下痢・嘔吐・消化不良
- 循環障害
- 凍傷
- 歯牙脱落・舌損傷
- 死亡

虐待・ネグレクトを受けた子どもたち



● 行動面の特徴

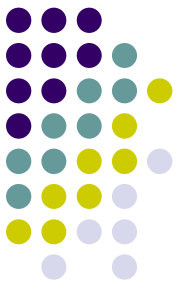
- 過食・盗食・異食・食欲不振
- 便尿失禁
- 常同運動
- 自傷行為
- 緘黙
- 虚言
- 盗み・万引き
- いやがらせ
- 集団不適応
- 火遊び・放火
- だらしなさ
- いじめ
- 器物破損・暴力
- 性的逸脱行動
- 自殺企図

虐待・ネグレクトを受けた子どもたち



● 精神面の特徴

- 運動・情緒・言語発達の遅れ
- 抑うつ
- 不眠
- 過敏
- 体が硬い
- 無表情
- 無気力
- 気分易変
- おちつきがない
- 人との距離がない
- 大人の顔色をうかがう
- 転換・乖離現象
- パニック
- 心因性疼痛
- チック
- 不定愁訴
- 希死念慮



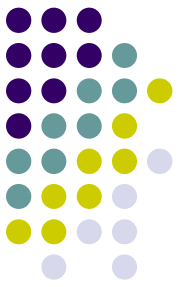
子どもたちの心理的傾向(1)

- 対人関係の問題
 - ワーキング・モデルの不在(人との関連性の学びの不在)
 - トラウマ性の体験による結びつき(虐待する者へのしがみつき)
 - 虐待的人間関係の再現傾向(挑発的言動)
- 情動や感覚の調整障害
 - 見捨てられ体験
 - 行動で示す激しい怒りや感情(パニック)
 - 自傷行為
- 自己イメージ
 - 悪い自己イメージ
 - 自己中心的認知傾向(悪いのはいつも自分), 否定的予測



子どもたちの心理的傾向(2)

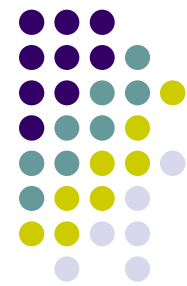
- 逸脱行動
 - 学習意欲の低下
 - 凍りつき反応
 - 行為障害
 - 自傷行為, 薬物依存
 - 性的行動化(売春)
- 精神障害
 - 抑うつ状態
 - 不安障害
 - 対人恐怖
- 人格障害
 - 乖離性同一性障害



子どもたちの心理的傾向(3)

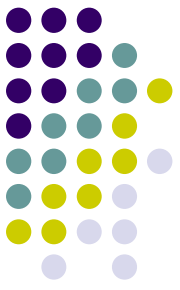
● 性的虐待を受けた子どもの症状

- 年齢不相応の性的言動・行動化
- 自分を汚いと感じる自尊感情の低下
- 回避行動(身体接触, 1人でトイレに行けない)
- 愛情と性的関わりの混同
- 乖離・転換症状
- ファンタジー傾向(うそつきと非難されやすい)
- 友だち関係からの孤立
- 過覚醒(不眠, 警戒心)
- その他(抑うつ状態, 自傷行為, 自殺企図, 家出, 薬物乱用など)



虐待はなにを生み出すか？(1)

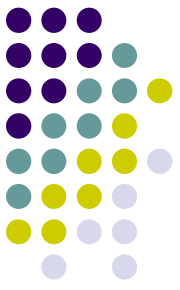
- 虐待の既往者は、その後の身体的暴力，性暴力，DVなどに遭遇する率が高い
- 虐待加害者の全例に子ども時代の被虐待，家庭外性虐待などの既往がある
 - (天竜病院，白川美也子氏の経験)



虐待はなにを生み出すか？(2)

- **犯罪との関係**

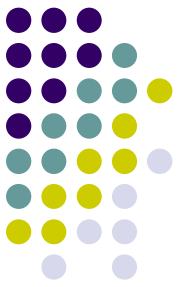
- 被虐待者の半数は, 32歳までに交通事故以外の犯罪で逮捕
- 小児への性虐待の加害者の75%が子ども時代の被虐待者
- 子ども時代の有害な経験は, 成人の健康問題に関与



虐待はなにを生み出すか？(3)

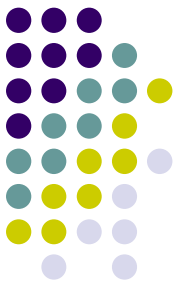
● 精神科患者と虐待の関係

- 精神科入院患者の50～60%，外来患者の40～60%が子ども時代に身体あるいは性的虐待を受けている
- 精神科救急部に搬送された患者の70%に虐待の既往がある



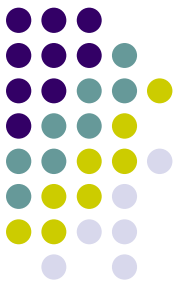
虐待と発達障害の関係(1)

- 乳幼児における母性的養育の重要性
 - 「施設で育てられた子どもたちの発達は概して悪く、言葉の習得が遅れた。成長するにつれて他者との安定した人間関係を形成する能力を欠く」
 - 「悪い家庭といえどもよい施設に勝る」
 - (Bowlby)
 - 自分をよく受け入れてくれない母親に対して、一時的な呼吸停止を示した(1938, Margaret)
 - 赤毛猿の研究(1958, Hrlow)



虐待と発達障害の関係(2)

- 虐待が発達に与える影響
 - 慢性の免疫力の低下
 - 成長障害
 - 運動, 言語, 認知力の遅れ
 - 不注意, 多動性
 - 社交性の欠如
 - 愛着性障害
 - 自閉症類似の言動
 - 注意欠陥多動性類似の言動



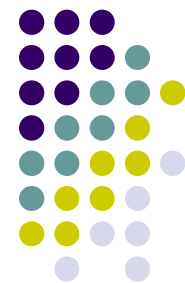
対応

- 子どもたち
 - 緊急度, 重症度, 個別発達状況に応じた保護
 - 心理的支援, 物理的安全環境の提供
 - 個別支援プログラムと自立生活プログラムの設定
 - 繰り返しのアセスメント
- 親
 - 状況に応じての対応
 - 再統合を目指すか, 二人目を防止するか
 - ソーシャルサポートのポイントを設定



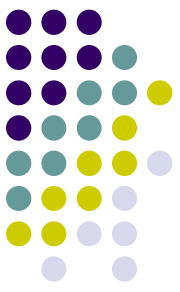
課題(1)

- 軽度発達障害の重なりという視点の不在
 - 保育・教育現場での気づき
- 支援者の燃え尽き
 - 児童相談所の福祉士, 心理士の60%が燃え尽き症候群(慢性疲弊状態)
 - 児童相談所福祉士の新規担当件数年間272件
 - イギリスの20倍, ドイツの18倍
 - 二次的外傷ストレス(支援者のトラウマ反応)
- 死亡例への検証
 - 死亡例は年間180件以上, 半数は乳児
 - 専門機関の不在(死亡例の40%以下しか関与していない)



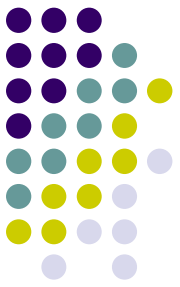
課題(2)

- **ハード面の不足**
 - 養護施設, 情緒障害児短期入所施設等は, 過半数が虐待を受けた子どもで占拠
- **ソフト面の不足**
 - 心理的支援技術の不足
 - 長期的家族支援プログラムの未確立
 - 人的資源, 専門家の圧倒的不足
 - 支援を拒絶する家族への介入方法の欠如
 - 施設内での対応力不足



ほどほどの目標を設定すること

- 未然に防ぐことが出来る事例と，強制介入が必要な事例があるのだろう
- 家族再統合を目指せる事例と，再統合させえない事例があるのだろう
- 狭義の医療化，個々にある「課題」を問題視して「自己責任」論として押さえ込むのではなく，「**家族・発達精神病理学**」の視点で検討する
- 虐待状況は，社会の健康度と成熟度のリトマス試験紙になる
- 国家的対策のなさは，国による児童虐待である



参考文献

- 氏家達夫(1996):親になるプロセス, 金子書房
- ロバート. M. リース(2005):虐待された子どもへの治療, 明石書店
- 坂井聖二(2003)子どもを病院にしたてる親たち, 明石書店取りかかりやすさから
- 坂井聖二監訳(2003)虐待された子ども, 明石書店
- 著者名で検索
 - 西澤 哲, 奥山真紀子, 椎名篤子など